

平成 29 (2017) 年度 追手門学院小学校 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

志高い「追手門教育」を継承する学校をめざして
 (1) 魅力ある追手門教育の推進 —誰が教えても、何を教えてもナンバーワン教育の確立—
 (2) 伝統の継承に基づく心情育成への実践推進 —追手門を誇りに思う愛校心の涵養—
 (3) 『志の教育』と『心の教育』の実践推進 —意欲伸長と内面深化の追求—

2 中期的目標

- (1) 魅力的な追手門教育の推進
- ・アクティブラーニングに重点を置いた研究体制。
 - ・発表力を中心とした表現力の育成を推進。
 - ・漢字統一テストや計算大会、用語チェックテストなどによる基礎力の徹底。
- (2) 『志の教育』と『心の教育』の実践
- ・本年度完成した iPad による自校教育アプリを活用。
 - ・ハンディキャップをテーマに道徳科講演会を実施。
 - ・「特別の教科 道徳」の追手門の授業スタイルの構築。
 - ・「善行を讃えて」の啓発。
 - ・「親切」心の育成。
 - ・外部機関を通じての出前授業の実施。
- (3) グローバル社会で求められる教育の推進
- ・英語教育の発展的な計画を持つ。
 - ・デジタルコンテンツの積極的な活用。
 - ・地球環境を意識するための全校を挙げて取り組み（省エネとエコ）。
- (4) 規律正しく安全な学校生活
- ・6 学年の系統性と発達段階を踏まえた日々の指導。
 - ・生活指導部や道徳科を中心に心情育成。
 - ・安全な学校生活と登下校の指導。
- (5) 積極的な児童募集
- ・教育活動をアピールする広報ツールの工夫。
 - ・新規の説明会の実施。

【保護者アンケートの結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見】

保護者アンケートの結果と分析 [平成 29 年 1 1 月実施分]	学校関係者評価委員会からの意見
<p>○ “We are Otomon” を月 2 回程度発行するなど、学校の教育に対する情報発信の機会を増やし、学年別参観日には学級懇談会を必ず実施をし、学級の子どもたちの現状や成果、課題を細かく伝えたことによって「各種情報公開」が 3 番目にポイントを増やしたと言える。</p> <p>○ 学習指導では、「わかりやすい授業」や「英語や国際教育」の評価が大きく向上した。新東館（メディアラボ）の建設に向けて、ソフト面の充実を進め、英語の週 3 時間化や、追小型アクティブラーニング授業の進展によるものと思われる。</p> <p>○ P T A 給食委員会による視察と試食では具体的な問題点は見つからなかったものの、昨年度スコアが最も下がった「学校給食」は、結果的に満足度の回復に至らなかった。今後も給食調理業者との打ち合わせを行い、子どもたちにとって栄養価が高く魅力的な献立となるよう、検討・調整を継続していく。</p> <p>○ 最もスコアが上がったのは「総合学園の長所」で、昨年度初めてプラス評価に転じ、引き続き大きくスコアを伸ばす結果となった。幼小連携や小中連携の推進のほか、大学の支援による学生の水泳・生活指導を進める臨海学舎など、少しずつではあるが一貫連携の成果が浸透してきた。</p> <p>○ 概ね本校教育をご理解いただいていると判断できる高い評価をいただいていた。今年度は過去 3 年間で最高の満足度となった。</p> <p>○ 保護者アンケートの回収率は 99.1% (昨年度 99.5%) で、引き続き保護者の皆様の協力度が極めて高いものであった。今後とも保護者と教員のアンケート結果の差異を含む分析を進め、その結果を小学校経営に反映させていきたいと考える。</p>	<p>【第 1 回委員会が出された主な意見と回答】平成 29 年 9 月 19 日実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東館の建設途中の様子などを見学させてほしい。 ⇒埋蔵文化財も含めて子どもたちに見せるように努力する。また、工事壁面に透明部分を作り、子どもたちにも工事の進捗が分かるようにしたい。 ・学校評価の目的を知りたい。 ⇒文科省からガイドラインが出されていることや我々が自己点検する良い機会であることを説明。この委員会から出された意見で改善したり、モチベーションを上げたりすると回答。 ・ぶれない追手門教育を大切にしてほしい。 ⇒多くの情報を発信し、その魅力を感じる人に入學してほしいと願っている。また、追手門の良さを失うことなく教育活動をしていると回答。 <p>【第 2 回委員会が出された主な意見と回答】平成 29 年 1 1 月 2 日実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北側の土地を取得できたことはすばらしい。 ⇒学則定員に照らし合わせると狭かった運動場も充足することになったと回答。 ・新東館の構想はすばらしい。 ⇒日本をリードするような教育を展開したいと回答。 ・児童には新東館に追いつくソフト面を育ててほしい。 ⇒A L の研修や I C T 教育の推進をしている。新東館の有効活用できるよう、教育の充実を図ると回答。 <p>【第 3 回委員会が出された主な意見と回答】平成 29 年 2 月 22 日実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他校に負けない募集をしてほしい ⇒もっと学校の魅力出していきたいと回答。 ・第 2 小学校つくるなどの考えを持ってはどうか。 ⇒考えが浮上した時代があったが、大きな投資でもあり現状では難しいと回答。

3 本校の取り組み内容および自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 魅力ある追手門教育を支える指導力の強化	<p>①アクティブラーニングの研究推進</p> <p>②児童がいきいきと活動する授業展開の研究推進</p> <p>③基礎基本を徹底する指導への注力</p>	<p>①追小型アクティブラーニング授業研究に最重点を置き、全ての担任・副担任が最低年1回の研究・研修授業を行う。</p> <p>②新東館完成時に求められる追小型アクティブラーニング授業研究を進め、発表力を中心とした表現力の育成を図る。</p> <p>③平常テストに漢字統一テストや計算大会、用語チェックテストなどを反復して実施することにより、基礎基本の徹底を図る。</p>	<p>① 全教員によるアクティブラーニングの研究・研修授業の実施。</p> <p>②発表力の向上。発表場面を重視した授業の構築。</p> <p>③基本事項の定着や明確な課題を設定した場を設定する。</p>	<p>①昨年度に引き続いての合宿研修でカリキュラムマネジメントを推進し、研究・研修授業での研修体制が確立した。授業力向上への意識のさらなる向上が、新東館建設に備えた次年度の課題である。</p> <p>②教科毎にカリキュラムを見直し、追小型アクティブラーニングによる授業単元を設定した。普段の授業で意見交換活動を推進すること、および個々の児童への細かな個別対応の充実が課題である。</p> <p>③学力学習状況調査でも、本校児童の優位性（平均点で10数ポイント上位）が確認された。</p>
2 志の教育の実践	<p>①自校教育の推進</p> <p>②道徳教育の推進</p> <p>③キャリア教育の推進</p>	<p>①行事毎に伝統の意義を説き、iPadによる自校教育アプリを推進するなど、愛校心の涵養を進める。</p> <p>②手話をテーマに道徳科講演会を実施する。道徳の教科化に伴い、追手門の道徳授業の構築を行う。</p> <p>③外部機関を通じて、各界からのキャリア形成に資する出前授業を数多く実施する。</p>	<p>①学用品供養祭実施。大阪城活動の実施。学校史を指導する。行事の目的の理解促進。</p> <p>②道徳授業の充実。なかよし下校の実施。清掃での縦割り班の編成。</p> <p>③児童の将来に繋がり、夢ややる気に繋がる授業の構築。</p>	<p>①朝礼や週番活動で社会有為の理解に努めた。「3つの目標」の意義を再認識させて活用することで、母校愛を育てる教育活動を次年度も継続する。</p> <p>②生活指導部と道徳科を中心に、徳育を重点課題に掲げて活動した。先進校校長による教員研修会を実施し、特別の教科道徳の評価制度を確立させた。今後とも全教職員で推進する必要がある。</p> <p>③公的機関やロータリークラブなど、卒業生の協力が極めて効果的であった。低学年でのキャリア教育推進が、来年度以降の課題である。</p>
3 グローバル社会で求められる教育の推進	<p>①英語教育</p> <p>②ICT教育</p> <p>②環境教育</p>	<p>①カリキュラム改定を行い、本年度より全学年週3時間化を実現させる。低学年では英語による生活科の1時間を開始する。</p> <p>②文科省補助金を得てSurfaceを導入し、タッチタイピング授業を含む広範囲なICT活用授業の展開を可能にする。</p> <p>③児童会の環境委員会を中心に、省エネとエコを具体的目標として、全校を挙げて取り組む。</p>	<p>①ネイティブティーチャーと日本人を配置した授業展開の構築。国際交流行事を通して国際教育を進める。ネイティブティーチャーとの挨拶と英語朝礼。次年度の英語授業時間数確保のための校時変更。</p> <p>②パソコンを使った授業の確立。タブレットを活用した授業展開の研究。</p> <p>③前年度同月比で電気、ガス、水道の消費量が下回る。各室での紙の分別を行う。</p>	<p>①学習指導要領の改訂を先取りし、モジュールを含めた週3時間化が開始出来た。“Otemon English Village”を3～5年生の学年行事として実施し、本格的な学校外での実用英語学習を推進した。</p> <p>②新東館建設を見据えて、デジタルコンテンツの積極的な活用および追小型アクティブラーニングでの活用を行った。さらに多くの学習場面での、より積極的な活用を進める余地がある。</p> <p>③各教室での再生紙の分別収集を周知して徹底するほか、各種ポスターを作成するなどの意識化に成果を挙げた。</p>
4 規律正しく安全な学校生活	<p>①礼儀礼節と規律の指導</p> <p>②マナー・安全指導と対策</p> <p>③けがの予防対策と環境整備</p>	<p>①各学年の系統性と発達段階を踏まえた日々の指導の徹底と内面化の育成をめざす。</p> <p>②生活指導部や道徳科を中心に、心情育成を含めた安全指導を全教職員で推進する。PTA校外補導委員会の協力を得る。</p> <p>③3年前の運動場人工芝化により達成した、2割近くけがの総数が減った状態を維持する。</p>	<p>①礼儀礼節の指導。朝礼で行動の訓練実施。和洋に通じるマナー指導。</p> <p>②安全指導の実施。緊急下校訓練の実施。なかよし下校の実施。</p> <p>③廊下の歩行指導。雨の日の過ごし方の指導。</p>	<p>①創設以来の本校の根幹を為すものである。本校が求める成果水準を下げることなく、日々具体的な指導を行い、高い成果を追求していく必要がある。</p> <p>②きまりの徹底と道徳的な規範意識の向上が、本校に求められる礼儀正しい登下校であり、安全性が確立された学校になる。教職員全員の高い意識を維持向上する為に、相互に繰り返して確認することで、率先垂範していくことを継続していきたい。</p> <p>③安全意識の向上および事故への予防教育を推進させることにより、けがのさらなる減少に努めたい。</p>

5 積 極 的 な 児 童 募 集	①教育活動の積極的発信	①在校児童の教育活動を広報するドローン動画を作成して活用するなど教育活動の積極的発信を実施。	①コンセプトブックの作成。リーフレットの作成。ポスターや新聞広告、イメージ広告の作成。ホームページの充実。	①昨年度より入試説明会の2回から3回への回数増を行ったが、すべての説明会で参加者は増えた。本校の良さを強調することで他校との差別化を図り、次年度には入試日程の検討を含むより積極的な入試戦略を展開した。
	②外部説明会への参加推進	②最大規模の阪急うめだ本店での関西私学展では、引き続きブース訪問者数で第一位となった。内部以外の幼稚園での講演を含めた広報活動を展開した。	②幼稚園などでの講演会の実施。5月、6月、8月に学校説明会の実施。	②追手門学院幼稚園との連携強化による内部進学者増に努めた。平常時からの教育交流を広く実施し、本校の魅力を周知するとともに、他園への働きかけを進めたい。